

生命に特許はいらない！キャンペーン

随時ニュースレター 2010年夏

遺伝性乳癌の検査方法の特許をめぐる訴訟

2010年3月、米国で起きていた遺伝性乳癌の検査方法の特許をめぐる訴訟で、ミリアド・ジェネティクス社が敗訴した。今後、他の遺伝子関連特許にも影響をおよぼす可能性がある。連邦地方裁判所は、この特許は無効であるとし、「自然の法則に任せるべきもので、特許の付与は不適切だった」と判決した。

リスクの高い乳癌および卵巣癌の検査に使われる特許をめぐる、米国自由人権協会（ACLU）がニューヨーク地裁に提訴していたもの。今回の判決を不服とする被告側が、特許を専門とするワシントン地方裁判所に——そして、おそらく最高裁判所にも——控訴するのは必至だろう。

<http://www.businessweek.com/news/2010-03-29/myriad-loses-ruling-over-breast-cancer-gene-patents-update1-.html>

<http://www.abc.net.au/rn/healthreport/stories/2010/2875048.htm#transcript>

オーストラリアでも訴訟

オーストラリアで取得された、乳癌および卵巣癌の遺伝子に関する特許が適法かどうかをめぐる、同国で訴訟が起こされている。裁判は2010年6月に始まり、原告側は遺伝子の突然変異（BRCA 1およびBRCA）に対する特許の取り消しを求めている。ジェネティック・テクノロジーズ社とともに、特許を共同所有するミリアド・ジェネティクス社、カナダのラヴァル大学病院（CHUL）研究センター、およびThe Cancer Institute（Japan）（日本語名は不明）が被告として名を連ねている。

<http://www.theage.com.au/national/bid-to-halt-patenting-of-genes-20100607-xqsc.html>

「開発企業が研究する権利を妨げる」

公的機関の研究者26人が米国環境保護局（EPA）に書簡を送り、商用バイオテクノロジー作物を研究する権利を、開発企業が妨げていると訴えた。現状では「企業が制限しているため」これらの作物に関わる重要な研究を、完全に独立したかたちで、合法的に行うことができない」という。

種子業界は極めて秘密主義的と見られており、開発した製品を研究者と共有したがる。そのため、企業がなにか隠しているのではないかという見方が強まっている。

Volume 27 Number 10 October 2009 Nature Biotechnology

<http://www.gmwatch.org/component/content/article/11573-gm-industrys-strong-arm-tactics-with-researchers-nature-biotechnology->

豪州での遺伝子組み換え食品と食品安全

オーストラリアの食品安全規制機関であるオーストラリア・ニュージーランド食品基準局

（FSANZ）は、食品およびその生産方法を安全とみなす傾向にある。ヨーロッパや日本などの食品規制機関は、危険な疑いのある遺伝子組み換え

（GM）食品から消費者を守るために動いているが、FSANZはこれまで食用GM作物の認可申請を一つも却下していない。

オーストラリアでは消費者の90%がGM食品に表示を求めており、GM原料が含まれていることが分かれば、その製品は避ける、と大半の消費者が答えている。オーストラリアのスーパーマーケットの店頭に並ぶ製品の最大70%にGM原料が含まれていることを、ほとんどの消費者は知らない。

保健環境研究所長のジュディ・カーマン博士は、南オーストラリア州保健省の上級疫学研究員を経て現職にある。現在、西オーストラリア政府の出資を受けて、GM作物の安全性を調べるための、初めてとなる独立の長期動物食餌実験を実施している。

カーマン博士：「ある会合でFSANZの前主任研究員に聞いたのですが、FSANZはGM業界が提供する生データは見ない方針なのだそうです。GM企業側がその生データについてFSANZに伝えようと選び出した要約情報だけを読むのです。」

FSANZについては、独立の研究者でバイオセーフティ分野の第一人者であるカンタベリー大学（ニュージーランド）ジャック・ハイネマン教授も懸念を表明している。ハイネマン教授は、FSANZがモンサントの「LY038」トウモロコシを認可した際の手順に疑問を呈したが、却下された。FSANZは2007年に「LY038」を認可している。

「LY038」トウモロコシは、家畜の成長速度を速めるよう遺伝子を組み換えられている。昨年、独立の研究者らとその安全性について懸念を表明したのを受けて、欧州食品安全機関（EFSA）はモンサントにもっと研究を重ねるよう求めた。これに対してモンサントは、申請そのものを取り下げ、という異例の対応に出た。これまで投じてきた約10億米ドルにおよぶ開発資金と、商用化されたときに得られる推定利益（年間10億ドル）に照らして検討した結果、これからさらに安全試験を実施すれば採算が合わなくなると判断したのである。

今年2月、モンサント・インドの元重役が内部告発を行い、モンサントはまた一つ大きな打撃を受けている。政府規制機関に独自の実験をする能力がない——企業が提出した安全データを確かめることができない——のをいいことに、モンサントが安全データを“改ざん”していたことを明らかにしたのである。その結果、インド政府はGMナスの禁止措置を決めた。

<http://www.abc.net.au/rn/backgroundbriefing/stories/2010/2871237.htm#transcript>

<http://permaculture.org.au/2010/02/10/monsant-o-pulls-gm-corn-amid-serious-food-safety-concerns/>

<http://www.voxy.co.nz/national/gene-ethics-india-rejects-gm-eggplant/5/37964>

企業のデータは信用できるか

モンサントが、新品種のGM大豆およびトウモロコシについて、オーストラリアへの輸入を認めるよう申請している。食品規制当局は最長一年をかけて申請内容を審査する。規制機関であるオーストラリア・ニュージーランド食品基準局（FSANZ）のポール・ブレント主任研究員は、ラジオ番組のインタビューで次のように述べている。

インタビュアー（以下、I）：「私たちも気になります…異なる規制環境で栽培された作物を、食品として私たちの国に持ち込むのですよね」

ブレント（以下、B）：「それは普通にあることです…FSANZはこれまで50種類近いGM食品の輸入を許可しています…包括的な安全評価を確実に実施するのが、私たちの仕事です。」

I：「FSANZでは独自の研究を実施しているのですか？」

B：「いいえ、していません…企業が提供するデータのほか、ピア・レビュー（訳注）を受けた雑誌記事や他の規制機関、科学教本など、あらゆる科学情報源を活用しています。」

（訳注）同等の知識を有する専門家による検証

I：「対立はありますか？」

B：「ありません…これは世界各国の規制機関で普通に行われているやり方です…FSANZは詳細に検証しています…提出されるデータについては、極めて具体的な要件を指定しています。世界保健機関（WHO）、食糧農業機関（FAO）、国際食品規格委員会（コーデックス委員会）が定めた…ガイドラインを適用しています…世界のどこでも共通です。米国食品医薬品局（FDA）もカナダ保健省も…日本の食品安全委員会も…みな同じガイドラインです…企業が提出したデータを使う場合がほとんどです。」

I：「食品を長期摂取したときの影響を調べる動物実験は行っていますか？」

B：「いいえ、していません。実際のところGM食品と非GM食品に違いはないので、長期的な影響を受ける可能性はない、と私たちは考えています。」

15/04/2010

<http://www.abc.net.au/rural/telegraph/content/2010/s2873660.htm>

GM トウモロコシに問題？

モンサントのGM トウモロコシに臓器毒性がある、という新たな研究報告が『国際生物科学ジャーナル』に掲載され、GM食品の安全性を改めて懸念する声が上がっている。モンサントの3品種のGM トウモロコシをラットに90日間与えた実験で、コントロール群のラットには非GM品種が与えられた。その結果、GM品種を与えたラットは、「腎臓や肝臓など、食事経路で摂取される毒素の解毒機構を持つ臓器への悪影響や、心臓、副腎、脾臓、造血系にさまざまな程度の障害が見られるなど」広範にわたる臓器障害が見られたという。

実験で使われた3品種のGM トウモロコシは、ポップコーン、トルティーヤ、穂軸つきのトウモロコシ、数千種類におよぶ食品に甘味料として使われているブドウ糖果糖液糖（コーンシロップ）などとして、アメリカおよびヨーロッパの食品供給システムの隅々まで行き渡っている。

Victoria Anisman-Reiner

14/1/2010

http://naturalmedicine.suite101.com/article.cfm/gmo_corn_linked_to_liver_kidney_heart_damage

GM 綿の畑の周辺で害虫が爆発的に発生

GM綿を栽培している畑の周辺で害虫が爆発的に発生することが野外栽培実験で分かり、GM作物の長期的リスクを再検証するよう研究者らが呼びかけている。中国北部の数百万ヘクタールの畑では、アメリカの巨大バイオテクノロジー企業、モンサントが開発した遺伝子組み換えBt綿が広範で栽培されるようになって以降、害虫が大発生している。この10年間で従来品種からGM品種へ切り換える綿栽培農家が増えるとともに、カスミカメムシの大発生——約200種類の果物、野菜、トウモロコシが壊滅的な被害を受けるおそれがある——が急激に増えた、と研究者らは言う。従来品種の綿を栽培する農家は、アメリカタバコガを駆除するために殺虫剤を散布しなければならないが、Bt綿は植物そのものに殺虫成分が含まれるため、散布を減らすことができるとされている。

<http://www.guardian.co.uk/environment/2010/may/13/gm-crops-pests-cotton-china>

お金（送料）も紙も節約したいと思うのでこのニュースレターをメールで送信して欲しい人は私に連絡を下さい：nopatentsonlife@gmail.com
又、送って欲しくない人も連絡を下さい。

P. マッカーティン